

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和4年度2月号

○ 概要

- (1) 令和4年度2月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,294億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+4.2%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,418円（伸び率▲4.9%）であった。調剤医療費の内訳は、技術料が1,713億円（伸び率+11.3%）、薬剤料が4,568億円（伸び率+1.8%）、薬剤料のうち、後発医薬品が945億円（伸び率+4.3%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,307円（伸び率▲9.1%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.77種類（伸び率▲0.7%）、27.6日（伸び率▲2.7%）、70円（伸び率▲6.0%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,547億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲14億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の645億円（伸び幅+9億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+43億円（総額461億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,547 億円 (▲14 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(645 億円)	21 循環器官用薬 (561 億円)	11 中枢神経系用薬 (499 億円)
0歳以上 5歳未満	19.9 億円 (+5.2 億円)	44 アレルギー用薬 (6.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.5 億円)	61 抗生物質製剤 (2.3 億円)
5歳以上 15歳未満	94.0 億円 (+19.3 億円)	44 アレルギー用薬 (36.5 億円)	11 中枢神経系用薬 (24.5 億円)	62 化学療法剤 (7.0 億円)
15歳以上 65歳未満	1,324 億円 (+35 億円)	11 中枢神経系用薬 (249 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(245 億円)	21 循環器官用薬 (173 億円)
65歳以上 75歳未満	789 億円 (▲55 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(173 億円)	21 循環器官用薬 (143 億円)	42 腫瘍用薬 (138 億円)
75歳以上	1,320 億円 (▲18 億円)	21 循環器官用薬 (242 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(221 億円)	42 腫瘍用薬 (169 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,418円（伸び率▲4.9%）で、最も高かったのは北海道（11,309円（伸び率▲4.6%））、最も低かったのは佐賀県（7,959円（伸び率▲4.1%））であった。
- また、伸び率が最も高かったのは鳥取県（伸び率▲2.0%）、最も低かったのは沖縄県（伸び率▲9.9%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	83.7 %	+1.7 %
薬剤料ベース	20.7 %	+0.5 %
後発品調剤率	80.4 %	+1.4 %
（参考）数量ベース（旧指標）	59.9 %	+0.9 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+4.3 %	+50.3 % (5歳以上 10歳未満)	▲5.3 % (70歳以上 75歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.7 %	30.0 % (100歳以上)	13.5 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	83.7 %	88.3 % (100歳以上)	79.1 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	799 億円 (+30 億円)	21 循環器官用薬 (232 億円)	11 中枢神経系用薬 (139 億円)	23 消化器官用薬 (91 億円)
0歳以上 5歳未満	7.8 億円 (+3.0 億円)	44 アレルギー用薬 (3.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.3 億円)	62 化学療法剤 (0.7 億円)
5歳以上 15歳未満	20.7 億円 (+7.1 億円)	44 アレルギー用薬 (12.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.3 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.8 億円)
15歳以上 65歳未満	286 億円 (+19 億円)	21 循環器官用薬 (65 億円)	11 中枢神経系用薬 (63 億円)	44 アレルギー用薬 (47 億円)
65歳以上 75歳未満	173 億円 (▲9 億円)	21 循環器官用薬 (64 億円)	11 中枢神経系用薬 (21 億円)	23 消化器官用薬 (21 億円)
75歳以上	312 億円 (+9 億円)	21 循環器官用薬 (102 億円)	11 中枢神経系用薬 (53 億円)	23 消化器官用薬 (45 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,415 円	1,819 円(北海道)	1,166 円(佐賀県)
処方箋 1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲4.9%	▲2.8 % (鳥取県)	▲10.6 % (沖縄県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	83.7 %	90.4 % (沖縄県)	80.1 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.7 %	24.0 % (鹿児島県)	17.9 % (京都府)
後発医薬品調剤率	80.4 %	86.3 % (沖縄県)	76.2 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.9 %	67.8 % (沖縄県)	56.3 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和4年度2月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。